

はじめまして、ダイバーシティ推進委員会 副委員長の中谷（なかや）と申します。

我が家は妻が専業主婦として家庭を支えてくれて、娘の成長を日々見守ってくれているおかげで、私は悠々自適に独立開業して仕事をさせてもらっている環境です。

独立しているといっても、誰かを雇用するわけでもないので、事務所は大阪に設けているものの、どうしても事務所でなければいけない仕事やお客さんのところに行かなければいけない仕事を除いて、自宅で仕事

ができるようにという環境を独立当初から想定しての独立でした。

そのため、独立して子どもが出来たら、自宅の作業スペースと子どもの部屋を同室にすることで、パパの仕事をしている姿を見せたりできるというなと思って、子どもの寝室と自分の仕事部屋を同じ部屋に設定しております。しかし、子どもは大人の想定通りには動いてくれず、情けないことに、自宅で仕事をするときは、妻にリビングで子どもを見てもらっている間に仕事をするというような状況になっています。仕事をしている時に、どのように子どもと共

存するかが、今の一番の課題です。

子育てをする中で、独立している一番の利点は外でしかできない仕事が終わったら帰ることができるという点でしょうか。我が家では、ほぼ毎日の娘のお風呂をパパが担当することになっています。自分が急に帰るのが遅くなると、娘のお風呂が遅い時間になったり、妻が一人でお風呂に入れることになったりします。しかし、すべての仕事の裁量が自分にあるので、その日に急遽遅くなることはほぼありません。お風呂の時間は、自分と娘が同じ空間に二人きりになる時間なので、娘の命を守る

## ダイバーシティ推進委員会企画記事 「子育てパパ会計士の日常」第3回

ダイバーシティ推進委員会 副委員長 中谷 洸太

者が自分しかいません。そんな環境で安心してやっている娘や楽しそうに遊ぶ娘を見ていると、今までの人生で一番幸せな時間だなと感じます。

子どもの検診や予防接種、市の子ども向けの教室や幼児向けの習い事などのイベント関係にはすべて参加するようにしていますが、なかなか日々の子育ての全てに関わりきれず、妻が主体で自分はサポートになっているというのが現状なので、「子育てパパ会計士」なんて言うの

もおこがましいですが、そういったイベント関係に参加すると、「良い旦那さん」という評価をされています。妻は毎日子どものことをしっかり見てくれているのに、外に出ても「良いお母さん」という評価を受けることが少ないので、そこは僕も気付いた時には「ありがとう」という言葉を伝えるというのを、意識するようにしています。

今は男性が育児に参加するようになっていき、子どもがいる女性の社会での活躍というのが注目されてい

ます。しかし、男性は外に出て仕事をするもの、女性は子どもが生まれたら家庭に入って、家事をして、子どもを育てるものという固定観念はまだまだ存在しており、健康に子どもが育っていることについて、母親が評価されるタイミングというのが少ないように感じます。

だからこそ、パートナーである父親が、育児に対して当事者として参画することはもちろんですが、母親に対して感謝を伝えることも子育てをする上で大事ななことだと考えま

す。一方で、母親に対しては「子どもに3本目の歯が生えたよ」、「今日は初めてトマトを食べたよ」といった、日々の成長を共有して、その瞬間に同じ空間に父親がいなくても子どもの成長を父親も感じることが出来るようにしてくれると助かると思います。（これは妻が私に対してしてくれてとても助かっています。）

今、子どもがいる方には是非子どもと向き合う時間や奥さんと向き合

う時間を大事にしてほしいですし、これからパパになる皆さんには、お風呂やご飯だけでも構わないので、

できる範囲で毎日子どもと触れ合う時間を作って、子どもの成長を楽しんでもらいたいです。

また、私もまだまだできていませんが「育児に参加をする」

ではなく、「育児をしている」というパパが増えていくと良いなと感じます。

